

公益財団法人日本バスケットボール協会

2019年度事業方針

◇2019年度事業方針

【改革方針の継続実施】

- ・JBS2016を機軸とした新たな方針・改革路線の実行
- ・「Break the Border」の精神のもと、バスケットボール界全体の体制改編・強化

◇2019年重点実施事項

- (1) 組織改変方針/新登録制度/D-fund 制度の実施とバスケット界全体の組織基盤（ガバナンス）の強化
- (2) ワールドカップ・東京オリンピックに向けた代表チームの強化と、審判/指導者/マネジメント人材の育成・強化
- (3) バスケットボール競技の価値向上に向けたマーケティング戦略の推進と拡大（B.MARKETING社と協働）
- (4) JAPAN BASKETBALL OFFICE の体制構築および機能強化/人材の育成・強化

◇主要活動

1. 関連組織ガバナンス

(1) JBA、PBA（都道府県協会）、各種連盟、協力団体等のガバナンス体制確立とサポート施策の実行

- ① PBA 連絡会、全国専務理事連絡会、PBA マネジメント人材養成等を実施し、全国におけるガバナンス確立
- ② 日本社会人バスケットボール連盟、全日本大学バスケットボール連盟の機能強化と事業の推進への指導等
- ③ 日本障がい者バスケットボール連盟加盟団体の東京 2020 パラリンピックに向けた活動等のサポート
- ④ 協力団体（全国高体連専門部、中体連、専門学校、定通制、高専、スペシャルオリンピックス日本）との競技会における連携と推進
- ⑤ アンダーカテゴリー部会（U12/U15/U18）活動・体制の確立と競技会環境整備の実施
- ⑥ PBA 内における専門委員会/アンダーカテゴリー部会等の活動の推進と対応
- ⑦ ブロック協会およびブロック事業における整備と役割の更なる明確化

(2) 登録制度および D-fund 制度の運用の向上

- ① 競技者数の増加に向けた取組みの実施
- ② D-fund 制度における PBA へのサポート体制確立

(3) インテグリティ委員会設立に伴う JBA、PBA、各種連盟、協力団体等の関係団体間の情報共有と活動の推進

2. JBA 組織運営

(1) JAPAN BASKETBALL OFFICE の体制構築

- ① 関係団体間の事務局機能の連携強化、人材の交流促進
- ② 事務局人材の育成・強化

(2) 「JBS2016」の PDCA サイクルを確立

3. 代表関連

(1) A 代表

- 男子① Japan's Way を具現化するための強化活動日数の確保
- 男子② 代表チームの海外遠征や国内における強化試合の機会創出
- 女子① 昨年のワールドカップに向けた強化計画のプランニング等の課題の克服
- 女子② A 代表×アンダーカテゴリー代表と連携・連動した強化活動

(2) アンダーカテゴリー代表

- 男子① ユース時代からの一貫した継続的指導、長期的な選手育成・強化体制の構築を目的とした「一気通貫プロジェクト」のスタート
- 男子② U22 世代の強化への着手
- 女子① 大型選手の強化、ユースティティブレーヤーの養成、海外の日本人パスポート保持者のタレント発掘活動

(3) 3×3

- ① 東京オリンピックに向けた「世界で戦えるチーム」づくり
- ② 各国 NF や 3×3 オーガナイザーとの連携による海外での強化活動
- ③ 中長期強化を見据えた指導者育成
- ④ U23 や U18 世代選手の新たな発掘・育成・強化（5 人制と相補的/統括的に実施）
- ⑤ 3×3 国内大会、B リーグ、W リーグ等との連携による選手の発掘、育成、チーム強化の促進
- ⑥ 帰化選手を含めた長身選手のオールラウンダー化、機動性の高いグループ戦術の遂行能力向上、フィジカル強化
→「日本スタイル」の確立
- ⑦ ワールドツアー（男子）、ウーマンワールドリーグ（女子）をはじめとする「海外転戦」の実施

(4) 全般

- ① 海外協会とのパートナーシップ提携の利活用（協定内容に基づいた強化プログラムの策定と国際試合開催等の連動）

4. 普及育成関連

(1) 長期的視野に基づいた年代別育成方針/システムの確立

- ① U12/U15/U18 の競技環境像の再構築とリーグ戦化の連携構築
- ② U12/U14/U16 育成センターの実施と課題解決

(2) 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の整備

- ① U12/U15/U18 における登録問題の課題解決

5. 指導者関連

(1) コーチライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの実施

(2) コーチデベロッパー制度の構築

- ① コーチ、コーチデベロッパーを評価するアセスメントシステムの構築
- ② S 級～B 級ライセンスを担当するコーチデベロッパーの養成

(3) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

6. 審判関連

(1) 2019 年度審判インストラクター制度完全実施

- ① ライセンス別認定講習会の実施
- ② プログラム・カリキュラムの構築

(2) 審判ライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの構築

(3) 審判員数増加のための施策および若手上級審判員の育成強化策の構築

(4) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

7. 事業関連

(1) 日本代表戦/各種大会の再設計および価値向上策の推進

- ① ウインターカップの収益拡大および U18 選手権化へ向けた整備/天皇杯・皇后杯の収益化（2020 年度からの大会方式の再整備準備）
- ② ジュニアオールスターの収益化および U15 選手権化へ向けた整備/全国ミニの収益化および大会のあり方検討
- ③ 日本代表戦の価値向上および FIBA 公式戦の着実な対応

(2) 東京 2020 へ向けた TO/スタティステーションの育成および管理養成システム構築

- ① FIBA ライセンス取得へ向けた育成の仕組みづくり（3×3 含む）
- ② 中長期的な TO/スタティステーションの全体レベル向上のための管理養成システム構築

(3) オリンピックテストイベントでの着実な大会運営（日本代表戦価値向上、収益最大化）

(4) JBA 主管大会以外の各種大会の各種管理・サポート業務（国体、IH、その他大会、PBA からの大会開催申請への管理業務など）

(5) 3×3 競技の普及、競技環境の整備および日本代表強化へ繋がる競技大会の実施

8. 広報関連

(1) 2018 年より着手しているプロモーション連動型広報活動の展開と充実

- ① プロモーションターゲットを明確化し、関連部門との連携によるプロアクティブな広報施策の展開
- ② JBA 各部門へのコンテンツ制作の権限委譲による外部発信体制の強化

(2) B リーグをはじめとする関連各団体との協働によるバスケットボール界全体の露出強化

- ① 各素材対象のニーズに応じた情報展開を可能にするメディアリレーションの構築
- ② 関連情報共有と進捗確認体制の構築
- ③ JBA-PBA 連携に加え、関係各団体の発信力を利用した多角的情報展開体制の構築と実現

(3) 2020 年オリンピック競技大会を主とする各カテゴリーのターゲット大会を見据えた広報戦略の策定

- ① 5 人制男女トップカテゴリー
- ② 3 人制男女トップカテゴリー
- ③ アンダーカテゴリー全般
- ④ 車いすバスケットボール（One Basketball Project/障がい者バスケットボール）
- ⑤ 外部委託等を利用した広報スタッフ体制の強化

以上